



International Symposium on  
Present Status and Future Perspective for  
Reducing Radioactive Wastes  
- Challenge for Relief in the Next-generation -

国際シンポジウム

放射性廃棄物低減に

向けた現状と

将来の展望

次世代の安心に向けた挑戦

基調講演 ウィリアム・マグウッド・四世

OECD原子力機関 事務局長

パネルディスカッション

「放射性廃棄物減容化・有害度低減に向けた  
研究開発成果の将来の核燃料サイクルへの反映と  
国際協力への期待」

2016年2月17日 水

9時30分～17時30分(9時開場)

星陵会館 東京都千代田区永田町2丁目16-2

主催:国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

協賛:NPO法人 ニュークリア・サロン

後援:文部科学省、(一社)日本原子力学会

参加無料

要申込

同時通訳



申込方法:参加下記URLかQRコードのリンク先にて、事前参加登録をお願い致します。  
定員に達した場合は先着順とさせていただきます。

URL:<http://www.jaea.go.jp/news/symposium/RRW2016/>

お問い合わせ:RRW2016事務局 E-MAIL:RRW2016-Secretariat@jaea.go.jp



# 開催主旨

2014年4月に閣議決定されたエネルギー基本計画においては、原子力は、安全性の確保を大前提に、ベースロード電源として位置付けられ、我が国において重要な役割を担っていますが、原子力利用に伴い発生する使用済燃料の問題は、世界共通の課題となっています。我が国は、高レベル放射性廃棄物の減容化・有害度低減や、資源の有効利用等に資する核燃料サイクルに取り組み、再処理やプルサーマル等を推進すると共に、高速炉や、加速器を用いた核種変換など、放射性廃棄物中に長期に残留する放射線量を少なくし、放射性廃棄物の処理・処分の安全性を高める技術等の開発を推進する方針としています。

本シンポジウムは、『放射性廃棄物の減容化・有害度低減のための技術開発』について関心のある方及び将来を担う学生の方を対象に、これまで我が国が進めてきた研究開発の現状と将来の展望について、専門家から報告し、国際協力の必要性、試験ツールとして大きな位置を占めるもんじゅ及び常陽並びにJ-PARCの現状と今後の活用を含めて理解を深めることを目的に開催するものです。



【常陽】



【もんじゅ】



【J-PARC】

## プログラム (暫定)

- |       |   |
|-------|---|
| 09:30 | 開催挨拶・来賓挨拶   |
| 09:50 | 基調講演 (William Magwood, IV 経済協力開発機構原子力機関 (OECD/NEA) 事務局長)  |
| 10:40 | 国内での取組み <ul style="list-style-type: none"><li>(1) 核分裂エネルギーシステムのあるべき姿 (藤家 洋一 NPO法人ニュークリア・サロン代表理事)</li><li>(2) 放射性廃棄物低減に向けた原子力機構の取組 (仮) (田口 康 日本原子力研究開発機構 副理事長)</li><li>(3) 高速炉サイクルの研究開発ともんじゅ、常陽の役割 (上出 英樹 日本原子力研究開発機構 高速炉研究開発部門 次世代高速炉サイクル研究開発センター長)</li><li>(4) 加速器を用いた分離変換技術の研究開発とJ-PARCの役割 (辻本 和文 日本原子力研究開発機構 原子力科学研究部門 原子力基礎工学研究センター 分離変換技術開発ディビジョン 核変換システム開発グループリーダー)</li></ul> |
| 13:15 | 海外での取組み <ul style="list-style-type: none"><li>(1) 仏国ASTRIDでの構想と将来展望 (Sylvestre Pivet 仏原子力・代替エネルギー庁 革新技術・原子力支援本部長)</li><li>(2) 中国における研究と将来展望 (Zhan Wenlong 中国科学院副院長)</li><li>(3) 米国における研究と将来展望 (John Herczeg 米原子力エネルギー省原子力担当副次官補)</li><li>(4) 印国における研究と将来展望 (Krishnamurthy Ananthasivan 印インディラ・ガンジー原子力研究センター 化学部先進燃料検討セクション長)</li></ul>  |
| 15:30 | パネルディスカッション<br>テーマ「放射性廃棄物減容化・有害度低減に向けた研究開発成果の将来の核燃料サイクルへの反映と国際協力への期待」<br>モデレーター：佐賀山 豊 日本原子力研究開発機構シニアアドバイザー<br>パネリスト：藤田 玲子 科学技術振興機構 革新的研究開発推進プログラムプログラママネージャー<br>他、上記国内講演者及び海外講演者  |
| 17:30 | 閉会挨拶  |
| 閉会后   | レセプション (有料)   |